



会報 2016年7月号

日本ニュージーランド協会 (関西)

創立 1970 年

New Zealand Society of Japan, Kansai

日本では今年も猛暑が予想されていますが、南半球ニュージーランド各地のスキー場は、ラニーニャの影響でオープンが少し遅れたようですが、10月まで楽しめるようです。治安が良く美しい自然に恵まれたニュージーランドは旅先として人気が高まっています。7月以降の行事は、下記の通りです。お繰り合わせのうえ、ご参加いただきますようご案内いたします。

■臨時例会 「イアン・フォーロン先生と語ろう」

隔年ごとに生徒を引率されて来られる Taumarunui 高校の Ian Forlong 先生 (数学・日本語担当・当協会客員会員) は、日本政府の東北復興視察招待プロジェクトで今月に来日されます。今回は、単独ですのでじっくりと日本語でお話ができます。

と き: 7月24日(日)午後4時~2時間

と ころ: 茨木の「ミッションベイ」(井上会員のお店) 茨木市中津町3-26

阪急茨木駅、みずほ銀行側から徒歩8分 Tel: 072-633-3112

会 費: 3,000円(飲み物代別) 定員: 17名 締切り: 7月19日

前日からキャンセル費をいただきます。2,000円

申込先: makltd@d1.dion.ne.jp 呉橋さん

Tel: 090-1952-9370 Fax: 06-6367-1793

■第260回例会

最近のニュージーランド事情に関するDVDを特別室で鑑賞し、その後は中央電気倶楽部(当協会3名が会員)の縁日祭りに参加します。多彩なイベント・飲み放題・食べ放題で暑さを忘れましょう。

と き: 8月26日(金)午後4時~3時間

と ころ: 中央電気倶楽部

会 費: 男性 3,500円 女性 3,000円

*詳細は別記

事務局: 大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

N.S.コンサルタント内 電話: (06) 6607-2112

HP: <http://nzsocietykansai.com>

E-mail: nzsjk1970@yahoo.co.jp

第260回例会案内

NZ 事情 DVD 上映・縁日祭り

最近のNZ事情を紹介したDVDを鑑賞・意見交換し、その後中央電気倶楽部の「縁日祭り」に参加します。食べ放題・飲み放題（露店風な屋台形式）で・射的・パターゴルフ・スマートボールなどの参加券つき。NZテーブルをご用意いたします。舞台上は曲芸ショーもあり昭和のレトロな雰囲気が漂う空間が楽しめます。ご家族・友人をお誘いのうえ、ご参加ください。

と き：8月26日（金）午後4時から3時間

ところ：中央電気倶楽部

北区堂島浜2-1-25

Tel：6345-6351

地下鉄西梅田駅から10分程度、

堂島ホテル北側を西へ300m。

定 員：15名 締切り：8月19日（金）

ご参加いただく方には、事前連絡いたします。

参加費：男性3,500円 女性3,000円

申込み：Tel・Fax 06-6607-2112

メール：ishiihisayuki@ybb.ne.jp

第259回例会報告

NZラム&ビーフ調理・試食会(神戸 5月14日)

今年で10回目を迎えた例会は述べ208名の参加になりました。「ラム肉は苦手だったが美味しく食べられた、アットホームな雰囲気で楽しく交流できた。」と好評をいただき、当協会の恒例行事として定着しています。デザートのパブロヴァも人気でした。準備のお世話をされた皆さん、エプロン姿で調理をされた参加者の方々に感謝いたします。食材は、アンズコ・フーズの協賛で安く提供いただきました。野菜・調味料は世話人さんが三宮のダイエーの開店時に買い出しに行かれました。今回は、6品の料理を作りました。ここではNZでは多分味わえない1品のレシピ(和風香草やき)を簡単にご紹介します。飲み物はワイン・ビールなどBYB方式でした。最近、東京ではラム肉料理のお店が人気だそうですが、関西では宝塚のキーウィハウスが有名です。



*NZ ラムの特徴：鉄分・ビタミン・亜鉛等を含む良質な赤身肉、生後4ヶ月から6ヶ月で出荷。

*NZ ビーフの特徴：栄養豊かな牧草だけを食べて育った赤身肉。ラムと同様の栄養分が豊富に含まれている。

・**ラムの和風香草やき**：材料、ラムチョップ・塩・胡椒少々・練り味噌（味噌・酒・砂糖）・しらねぎ少々・大葉・レモン・レタス。手順、常温に戻したラム肉の両面に練り味噌をぬる。・ラム肉を魚焼きグリルで、軽く焦げ目がつくまで両面を焼く（片面5～6分）、フライパン利用も可。・焼き上げる直前に大葉でラム肉をはさみサッと焼く。・レタスを皿に敷きラム肉を盛り付け、しらねぎをのせ、レモンを添える。焼き加減はミディアムレアがおすすめ。お肉にしっかりと弾力ができたら焼きあがり。関西在住のキーウィ・オージーにも人気があります。

出席者：柳田勘次 山内龍男 山田輝子 山下誠二・淑子

松元昇・美智子 酒井道雄・香代子 吳橋真人
中谷紀子 林園子 塙幸子 永田美夜子 石井久行
北野和夫 正木紀通 宗佐保 西川誠一 小松大
藤野紀子 福田美千穂 熹福加代 大矢昇
水田裕子 岡田真介 尼子邦之 中島隆司 黒木彰
山野敏子 迫キミ子 林進 ヘスス・アンセル
西原博子 外山佳子 多久和律・朱実 東裕子
山田三恵子 (順不同)



公園近くのフェンダルトンに、小さな一軒家を借りてしまいました、
長女も急遽、現地の教育大学に編入、キーウィの同級生と教師を目指して勉強することになりました。卒業と同時に現地の学生たちに混じって“就活”、職を得たのが北島のファンガレイにある男女共学の公立高校でした。

■初めてのニュージーランド

1995年1月、実家の母を寒い日本の冬から脱出させ、暖かいところに連れていきたいと選んだのがニュージーランドでした。ニュージーランドについての何の予備知識も無いままの2週間の自由旅行のために、当時オランダで勉学中だった長女に宿泊手配を一任し、彼女をそのまま通訳がわりに呼び寄せ、母と娘、夫と4人の旅をしました。

初めてのニュージーランドは夏の盛りで、どこの家にも大きな庭に花が咲きあふれていました。道で見知らぬ人に出会っても、目が合えばにっこりと微笑んでHi!と声をかけてくれます。どこか取り澄ましたような冷たさを感じていたヨーロッパの国とは全く違っていました。

クライストチャーチ郊外でのファームステイの一軒家はうっそうとした森に囲まれ、日本の暮らしからは想像もつかないほど大自然の魅力にあふれていました。朝は静寂のなか小鳥のさえずりで目を覚まし、夜は降り注ぐ満天の星をながめ、日中は庭に自由に出入りするクジャクと遊びました。牧場に放し飼いにされたファームのオーナーの馬で乗馬体験もさせてもらいました。町の中心からは1時間以上も離れたところでしたが、退屈する間もなく、敷地内に流れる小川でうなぎ取りをしたり、庭でテニスをしたり、木陰で読書やスケッチをしたり、当時の私たちには夢のような日々をすごしました。

その間に阪神淡路大震災が起こるという事件もありましたが、すっかりニュージーランドの魅力にとりつかれた私たちは、その年の暮れにNZに舞い戻り、クライストチャーチのハーグレイ

Valley Homestead

そんな縁で冬の厳しい南島には別れを告げ、北島の北端のファンガレイへ移ることになりました。娘の為に彼女の職場から車で5分、町からも15分ほどのところに購入した古い大きなヴィラ（英語でホームステッドといいます）がValley Homesteadです。



しかし間もなく娘は結婚して車で5分程の近くに住むようになったため、今は私たちの毎年暮れから翌年3月迄の滞在用になっています。

建物は築百年の古い建物なので、滞在のたびに娘夫婦の手を借りながら、ペンキの塗り替えや家具の手入れを続けています。水は山からの天然の湧き水をパイプでひいています。湯は前もって電気で温めたシリンダーに1日1本で間に合わせなければならぬので、最初はガスで温めた湯を「湯水のごとく」使うことに慣れている身には戸惑うことも多かった、と記憶しています。ひろい敷地には常時牛3頭、豚2頭、ニワトリ4羽が放し飼いにしてあるので、娘夫婦が飼育の世話をしてくれています。見晴らしの良いテラスでの食事、庭のガゼボで咲き乱れる花に囲まれて楽しむアフタ

ヌーンティーは、至福の時です。

毎年やってくる友人達

12月から3月はニュージーランドは日本と反対で夏なので、寒い日本を脱出して、友達がやってきます。その友達がまた友達を誘い、毎年2組か3組のグループで、やってきます。

ブレンガレイには有名なヨットハーバーがあり、ウォーターフロントにはさまざまな国籍のヨットが停泊しています。水流豊かな滝をはじめ、鯛を含むさまざまな魚や伊勢エビのとれる豊かな海があり、近くの遠浅の海では潮干狩りもできます。



北に車で1時間の距離に位置するベイオブアイランドには、海洋保護区に指定されているダイビングスポット、イルカ、クジラで有名なスポットもあります。その途中にはマオリの人たちが管理する土ボタルの洞窟、山奥の原始的な露天風呂もあります。また、ファンガレイから半時間の距離に、オーストリア人のハンダーヴァッサーのデザインした世界一有名なトイレのあるカワカワがあります。いまでもマニアによって手入れされ、実際に乗車できる蒸気機関車もここにあります。

友人たちは2週間、長い人では1ヶ月の滞在をしています。滞在費用も友人達が1泊いくらと取り決めてくれていて、毎晩NZワインを傾けながら語り合い、ほとんど合宿のような楽しさです。ニュージーランドは車が無いとどこにも行けない国ですが、滞在中は我が家の8人乗りワゴン車にぎやかに移動しています。



ニュージーランドの学校教育

孫娘はいま日本では小学校6年生ですが、NZでは7年生、プライマリースクールのシニアクラス、中学1年生です。教育方針はのびのびとじていて、自由だなと感じることが多いです。宿題も選択制で、部活が忙しいなどの理由で親が「要らない」といえば、先生は宿題を出しません。放課後の塾もありません。

「本や映画の中の主人公、または登場人物に扮して登校する日」や、「キテレツな髪の毛で登校する日」等々があり、子供達だけでなく、先生達も、凄いコスプレ姿で登校してくるのにはびっくりさせられました。学校教育の面白さについてはまた次回に譲りましょう。(酒井佳代子)

■ニュージーランドの道路事情

まえがき

石井会長から大林組に最近まで勤めていたのだからNZの道路事情について何か書けとのことでした。私自身は土木職としてシンガポールで約6年半、埋立工事や地下鉄工事に従事した経験はありましたがNZでの勤務経験はありませんでした。OBのもとへ届く定期広報誌にオークランド近郊の「ウォータービュー高速道路建設工事」施工中の記事が紹介されていたので、それを手掛かりにしてネット検索等を主に寄稿させていただきます。NZ行政の変遷/内容などはネット頼みですので正確さについてはご容赦ください。

1. 小さな政府への過程

NZはイギリスからの移民白人(パケハ)と原住民(マオリ)と共に直轄植民地から1907年独立

し連邦の一員となり、特惠関税で優遇され冷凍船発達のおかげにもより農産物をイギリスに供給して順調に発展してきました。また安全保障上も連邦庇護を受けてきました。

しかし1973年にイギリスがEU加盟することにより特惠関税待遇を失い輸出は縮小して2度のオイルショックもありインフレと失業率の上昇に見舞われた1979年にNZ国民党マルドゥーン政権は財政出動による公共投資の拡大と政府管理の金融政策で経済復興を図りましたが、巨大な財政赤字が発生したばかりか国営企業の赤字垂れ流しが常態化してしまいました。

1984年からNZ労働党ロンギ政権はロジャー・ダグラス財務大臣のリーダーシップにより徹底した行政改革(国営企業や公共サービス部門の縮小・民営化)で国家公務員数を大幅減させ、規制緩和、補助金削減という大きな政策転換を行いました。1987年に財政収支は黒字化し、1988年にインフレも沈静化しましたが、一方でGDP成長率の低下と失業率の上昇が顕在化してしまいました。1990年代後半になるとNZ労働党ヘレン・クラーク政権は最低賃金引き上げや年金増額検討や医療教育福祉に政府支出や介入を増やして「小さな政府」からすこし外れてきました。

2008年からのNZ国民党ジョン・キー政権が現在も、変わりつつあるものの「小さな政府」は継続しています。しかしながら、ここへきてイギリスのEU離脱か否かによる影響は世界経済だけでなくこのニュージーランドにも及ぶでしょう。

2. 交通政策とNZTA

小さな政府化は建設行政にも徹底されて国家公務員数は激減しました。現在の省庁の体制としてはMinistry of Transport(交通省)が交通投資方針や戦略をたてて、NZ Transport Agency(NZTA NZ交通庁)が実行する組織です。投資方針や戦略には国家予算の適正配分、経済発展や環境維持も色濃く反映されているようです。

NZTAが担当するのは交通に関する次の項目：

- ・交通情報提供
- ・運転免許交付等
- ・車両規制・料金徴収、道路、鉄道
- ・安全
- ・ウォーキング、サイクリング、公共交通
- ・計画と投資

3. 道路の「国家重要道路(Road of National Significance)」

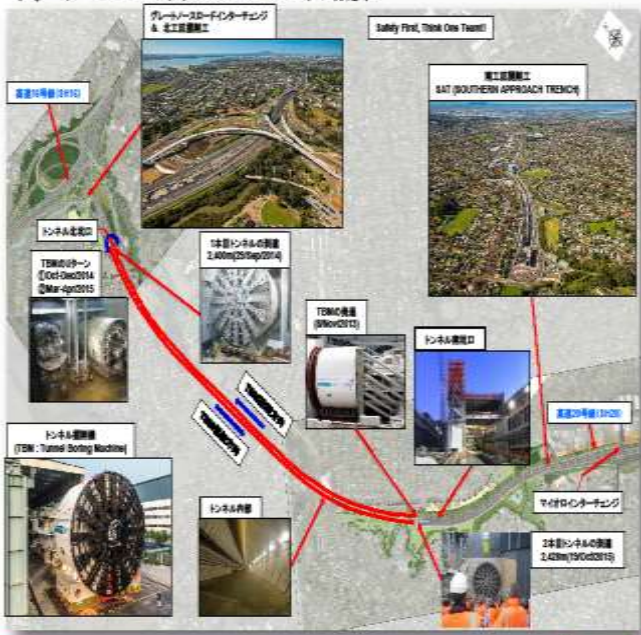
RoNS計画は国家社会基盤(インフラ)整備計画と政府の国土交通施策の根幹であり、国土交通計画に由来する投資優先順位を方向づけています。現在以下7つのRoNS計画はNZの人口密集地域オークランド、ハミルトン、タウランガ、ウエリントンとクライストチャーチの5都市近郊で実行中です。クライストチャーチをのぞいて北島が多いのは人口の現状と増加傾向が反映されています。

- ② Ara Tuhono – Puhoi to Wellsford – State Highway 1
- ② Western Ring Route, Auckland – State Highway 16,18,20
- ③ Victoria Park Tunnel, Auckland – State Highway 1
- ③ Wikato Expressway, State Highway 1
- ④ Tauranga Eastern Link – State Highway 2
- ⑤ Wellington Northern Corridor – State Highway 1
- ⑥ Christchurch Motorways

4. 日本企業のRoNSへの参加

前述のRoNS ②、West Ring Routeの一部に大林組が参画しているので紹介します。

ウォータービューコネクションプロジェクト概要



シールドトンネル：2,400m

双設で総延長約 4,800m

掘削期間 23 ヶ月、泥土圧(気泡)

シールド型式、

セグメント外径：14m

内径：13.1m

セグメント幅：2.0m

クロスパッセージ(横連絡坑：

緊急避難通路及び消火設備)：

150m 間隔

開削部：RC 杭留め(南側)、連続

地中壁(北側)、総延長約 420m

切盛土工：総延長約 1,240m

その他：換気塔、トンネル内

交通管理システム、

機械電気設備工事

工事名称 ウォータービューコネクション
トンネル及びグレートノース
ロードインターチェンジ建設工
事

発注者 The New Zealand Transport
Agency：NZTA

施工場所 オークランド市

請負金 約 744 億円(受注時レートは
1nz\$=63.85 円

契約形態 設計施工契約

アライアンス 発注者：NZTA
施工者：フレッチャー・コンス
トラクション
マッコネル・ダウエ
ル
大林組

設計者：パーソンズ・ブリンカ
ホフ(オーストラリア支社)
ベカ・インフラストラクチャー
(NZ)
トンキン・アンド・テラー(NZ)

工期 2011 年 11 月 28 日～2017 年 3 月 21 日
(1,940 暦日)

工事内容 高架橋インターチェンジ：4 ラ
ンプ、総延長約 4,800m

【シールドマシン概要】

外径：14.46m、機長：12.585m、重量：2,500t、
カッタートルク 68,220kNm、推力：
228,000kN

ドイツのメーカー、ヘレンクネヒト社が中国
工場で作成、大林組開発の「シールドマシン
チャンバー内の土砂流動可視化装置」を搭載
しています。

双設トンネルの右側の 1 本目を掘り始める
「発進式」の様子です。

2,400m を掘り終り向こう側に出ると、その
場所で U ターンしてこちらへ掘りながら戻
ってきて、左側のトンネルも完成します。



2,500t の大型機械が前面につけたカッタービット(黒色)を回転させながら地中を掘り進みます。



祈っています。日本経済も！

2015 年 10 月に 2 本ともトンネル掘削完了して、現在は円形断面の下部を埋めて道路盤造成、横連絡坑設置、内部照明や消火設備設置、交通管理設備設置を行っており 2017 年の初めに供用開始予定です。
(外山 純)

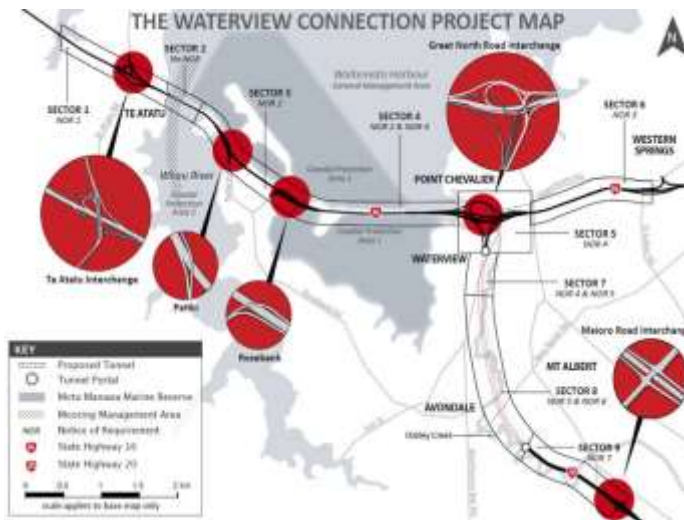
■ご寄稿のお願い

皆様からの原稿をお待ちしています。

ニュージーランドに関する情報・旅行記等をお気軽にお書き下さい。

次号の締め切りは、9 月末です。

SECTOR5,7,8,9 が工事範囲です。



■秋の予定

・ネルソン祝祭合唱団公演会

10月10日(体育の日)14:30～ 天満教会

・大和五條・柿狩り

11月12日(土)

・クリスマス例会

11月23日(祝日) 昼 神戸外国倶楽部

オークランド市は向こう 30 年間に人口を 100 万人増やす構想があります。ハーバーブリッジを通る国道 1 号線の車線数は増やせないで、湾の西側に Western Ring Route という大きなバイパスを設けて、南北通行を確保しながら将来の拡大した住宅地の住民の利便性にも応えます。もちろん現住人と観光客にも便利に又速く移動できるメリットがあるようです。観光に出掛ける方はもうしばらく不便を我慢願います。

ある意味では国とオークランドの将来を賭けた投資です、うまく世界経済と NZ 経済が進むことを

T. Poraさんは性的暴行と殺人罪で2年間服役していたが、冤罪が認められた。

NZニュース・クリッピング

(5月～6月)

・失業率上がる

統計局によれば今年3月までの3ヶ月間で、5.7%に跳ね上がった。14万4000人が失業中。

・フリーダイビング世界記録更新

W. Trubridge氏が、バハマの海で自身の記録を1メートル更新し、122メートルの潜水を記録した。

・不動産高騰の原因は外国人投資家ではないかも

土地情報省の不動産データによれば、今年3月までの3ヶ月間の海外納税者の不動産購入は3%、そのうち3分の1がアジアから。

・2016年度経済予想

B. English 財務大臣によれば経済成長率は15/16年度は2.6%、17/18年度は2.8%成長の予想。

・冤罪で2ミリオンドルの賠償金支払い



・偽のパスポートで永住権取得した女性

中国人 Yunjuan Li は、偽パスポートを利用し、NZ人と結婚し、永住権を取得した。移民局は国外追放ができるか否か検討中。

・農場の売り出し件数減少

4月までの3ヶ月間は、昨年同期より16%減少、しかし価格は5%上昇。

1ヘクタールあたりの平均価格は、3万ドル。

・アボカド盗難被害増加

1月以降、今年の不作と価格の高騰により犯が増えたようだが、間もなく旬になるので被害は減るようだ。

・農家のメンタルヘルスケアに60万ドル補助

干ばつと牛乳の低価格問題で農家のストレスが高まっているそうだ。

昨年、政府予算で50万ドルが使われた。

・スキー場オープン延期

6月半ばにはどこでもオープンするが、今年は昨年になく暖かい気候により延期している。7月9日からのスクール・ホリディが始まるまでには十分な雪が期待されている。

・砂糖税導入へ7千人の署名

ラグビーの M. Bethan 選手等著名人を含む7000人が署名した。メキシコは導入後ソフトドリンクの消費量が減った。英国も2018年から導入案が出ている。

OECDで3番目の肥満体国でもあるので今後の政府が注目されている。

(NZ大好きより)

■ラム&ビーフ例会



